

# 福岡大学

## 学園通信

人と夢を紡ぐ  
コミュニケーションマガジン

41  
No.

April, 2013

昨日の自分に見送られて、  
明日の自分が待っている場所へ。  
大きな夢と希望と志を持って、前へ。

「踏み出す」



# 「踏み出す」

父母、恩師、そして多くの人々の  
温かい無数の励ましに包まれて

福岡大学での日々が始まった。

昨日は今日のための一歩。

今日は明日のための一歩。

その一歩、一歩が道を拓く。

その道は確かな未来へとつながる。



# 「踏み出す」

## 特集 1

新入生歓迎

在学生の皆さんへ

GAP 特集

福岡大学便利ファイル

竹藤千穂さん

## 充実 Campus Life

経済学部経済学科 4年次生

鶴田直之 工学部電子情報工学科教授

「ロボットの目」の研究が

未来の産業を開拓

## 講義ライブ 90分

・学術文化部会 能楽部

・体育文化部会 福大スポーツ編集局

・共通教育科目 総合系列科目

・教養ゼミ 地理学 A・B

・外国を広く知ることで日本人としての

アイデンティティーを高める

## 先生の研究

田中 亜紀さん

・株式会社鹿児島銀行

・西日本ガス情報システム株式会社

## 情熱の証

・研究室長 横田歩さん

## 就活メモリー

・耳鼻咽喉科診療部長 中川尚志教授(医学部)

・営業カンパニー ビルプロジェクト統括部 営業部 ビル営業開発グループ

## 時代を駆ける先輩たち

・株式会社LIXIL

・研究室長 横田歩さん

## ヒポクラテスの系譜

・耳鼻咽喉科診療部長 中川尚志教授(医学部)

・研究室長 横田歩さん

## 福岡大学の医療展開 NEWS

・心地よい春風に誘われて 自転車のペダルを踏み出そう

## ココロとカラダ

・福岡大学附属病院 寄付金募集中

## Collaboration F

・「ヨーロッパへ!」いつしかくも「どー

## FUKUDIARY

・ななくま通信

・寄付者「芳名一覧

・第1回 福岡大学建築系寄付金募集中

41 39 37

## ヒポクラテスの系譜

・耳鼻咽喉科診療部長 中川尚志教授(医学部)

・研究室長 横田歩さん

## 福岡大学の医療展開 NEWS

・心地よい春風に誘われて 自転車のペダルを踏み出そう

## ココロとカラダ

・福岡大学附属病院 寄付金募集中

## Collaboration F

・「ヨーロッパへ!」いつしかくも「どー

## FUKUDIARY

・ななくま通信

・寄付者「芳名一覧

・第1回 福岡大学建築系寄付金募集中

41 39 37

## ヒポクラテスの系譜

・耳鼻咽喉科診療部長 中川尚志教授(医学部)

・研究室長 横田歩さん

## 福岡大学の医療展開 NEWS

・心地よい春風に誘われて 自転車のペダルを踏み出そう

## ココロとカラダ

・福岡大学附属病院 寄付金募集中

## Collaboration F

・「ヨーロッパへ!」いつしかくも「どー

## FUKUDIARY

・ななくま通信

・寄付者「芳名一覧

・第1回 福岡大学建築系寄付金募集中





### 幅広い教養と確かな人間力

**グローバル人材の基本は**

入学、進学と環境が変わるこの時期は、新しい自分へと踏み出す絶好のチャンスであります。多方面に興味の目を向け、新たな目標を掲げることが第一歩。そして、その本日の面白さが分かるまで継続的に打ち込んでください。学びの場で、いえ、覚えるだけでなく、しっかりと理解する勉強をあなたに勧めています。これからと理解してほしいと思いません。

教務部長 黒瀬 秀樹  
(理学部)



横張 文男 教授  
Fumio Yokohari

### 総合大学の利点を生かし 広くそして深く学ぶ

**学生時代に見つけてほしいもの**

「自分を高める一芸」

文理の枠にとらわれず、興味持ったことや書き始めただい。語学や文化など、幅広い才能を持つことを社会に出てからも使ってもらいたいです。

教務部長 黒瀬 秀樹  
(理学部)



荒牧 重登 教授  
Shigeto Aramaki

### 人を知り、人を学びながら 理想の自分へ近づいていく

**学生時代に見つけてほしいもの**

「問題解決型思考」

大学での学びにおいては、問題の解よりも至るまでのプロセスが大切に思えます。何をやることが社会に出てからも役立つのです。

学生部長 小野寺 一浩  
(法学院)



久保 真一 教授  
Shin-ichi Kubo

### 医療人には、高度な知識や実践力だけでなく、患者さんの痛みが分かる豊かな心と倫理観が求められます。忘れてならないのが、病気を診るのではなく、患者さんを見に来ることもできます。現在は、工学の分野だけでは解決できない問題も多くなってきます。例えば、人間に優しい椅子などを製作する場合、スポーツ・科学や医学的視点で立った人体の構造が必要となるでしょう。9学部31学科を有する福岡大学には多彩な学問分野が幅広く存在し、自分の専門分野以外の学生と交流する環境も整っています。ぜひこのチャンスを最大限に活用してください。幅広い知識と視野を身に付けてください。また学問あるいは人生の先輩でもある教員や職員から専門に関する質問を多くうなづかせません。国際的に通用する真のグローバル人材と心は、すべての学生にとって社会に出てからも役立つ重要な要素です。また、物事に取り組む主体性はグローバルに活躍できる人材を目指す上で欠かせません。国際的に通用する真のグローバル人材とは、単に外国语を話せるだけではなく、人間としての基礎力、幅広い教養を持った人のこと。教育環境に恵まれた本学で自分を磨き高めてください。



添田 泰司 教授  
Shinji Soeda

### 理想の自分へ近づいていく

**学生時代に見つけてほしいもの**

「喜ばれ感謝される体験」

実習中の医学生も患者さんとともに、人の命と健康に携わる薬学部生は、もちろん、福岡大学の学生全員に願うべきである。大学では、高い目的意識を持って自己研鑽を怠らず、幅広く多くの現場で「主体性」を実現していきます。そのためには、学生が医療現場に於ける実習をこれまでの4週からさらには13週間で充実させ、自分の専門分野以外の学生と交流することはもちろん、多くのことを学んでください。私自身も学生時代に尊敬できる師との出会いがあり、そこで得た「自分の頭で考え、自身を教育する習慣」は一生の財産になっています。

### 自己研鑽を忘れずに

**学生時代に見つけてほしいもの**

「美しい言葉と美しい心」

美しい言葉の中にこそ美しい精神が宿されている。それを表現する限り大きいことが嬉しいです。また、福岡大学の特性を生かして、積極的に多彩な9学部の学生が世界へ歩み出す情熱を持つところには、常に、勉強だけでなく日々の生活、出会いの中からさまざまなものがあります。それは、まさに「自分の頭で考える習慣」は一生の財産になるはずです。

### 日常生活のすべてが勉学あらゆる経験を糧にしよう

**学生時代に見つけてほしいもの**

「粘り強く継続する力」

自分で決めたことが動き出したたら、最後までやる気で達成する意地で、今までやるべきことを同じでやる意地をも、それを乗り越えた経験こそが何よりも大きいです。また、当たり前のように思っていた自分の環境がとても恵まれていてることに気付き、感謝するきっかけになるかもしれません。

### 日常のすべてが勉学、あらゆる経験を糧にしよう

**学生時代に見つけてほしいもの**

「これまでに学んだ知識を生かし、海外の大学で学び、経験を積む。留学・海外研修科目」

GAP(グローバル・アクティブ・プログラム)は、世界を舞台に活躍するグローバル人材を育成する新プログラムです。

**海外に目を向け、語学力やコミュニケーション能力の向上を目指す。**

基礎科目(1・2年次)

- アジア学入門
- アジア現地研修\*
- 留学準備Ⅰ
- Overseas Training Program
- グローバル・イングリッシュⅠ・Ⅱ
- グローバル・イングリッシュⅢ・Ⅳ\*
- 留学準備Ⅱ

**英語で外国の文化・歴史などを知り、海外で学ぶための準備を進める。**

国際教養科目(2・3年次)

- Global Economy and Business
- Japanese History and Culture
- Japanese Economy and Business
- グローバル・インタラクティブ・イングリッシュⅠ・Ⅱ
- Academic Skills for Study Abroad
- Global Issues Practicum
- グローバルESP
- English Academic Writing
- 海外インターンシップ・準備

**これまでに学んだ知識を生かし、海外の大学で学び、経験を積む。**

留学・海外研修科目

- 留学Ⅰ・Ⅲ\*
- 海外インターンシップⅠ・Ⅲ\*
- GAP総合演習(必修科目)

\*マークは選択必修科目(海外留学等科目)

### 1・2年次生向け新プログラムがスタート

**世界を舞台に活躍するグローバル人材を育成するGAP(グローバル・アクティブ・プログラム)**

福岡大学は、平成25年4月からグローバルに活躍できる人材育成を目的とした「GAP(グローバル・アクティブ・プログラム)」を開始しました。平成24年度以降の入学者(学籍番号の入学年度12台以降の学生)を対象にさまざまな授業や海外研修を実施していきます。

**GAP-**

グローバル(Global)に活躍するアクティブ(Active)な精神を持った人材の育成を目的とする教育プログラム(Program)のことを指します。

「自分にとっての光」

心を震わせる、キラキラ輝くものを見掛けたときに、その対象が学生であれども、没頭するうちに自身の成長を感じる瞬間があります。福岡大学で実現する「自分にとっての光」は、誰かの延長線上に進むべきであるからかもしれません。

「夢中になれるもの」

普段の夢や目標が限らず多くのことをやっているうちに、ついに夢中になれるときも自分の延長線上に進むべきであるからかもしれません。

「心惹かれる人」

大学時代に出会った友や先輩、師は一生の宝になり得ます。その人の人生に出会うからこそ、その人が持つ深い感情や高揚感は大きな成長の糧になります。

「自分にとつてはほしいもの」

福岡大学には今春から始まった「福岡大学グローバル人材育成推進事業」の一環として、「グローバル・アクティブラボラトリー」が開設されました。これにより、個々の学年ごとに、教養セミナーや、教職員による授業の垣根を越えて、学べるプロジェクトがあります。文系理系の学生が共に学ぶことで、社会性や多様性が養われます。多くの人と意見を交換すれば、相手の考え方を理解し、違いを容認するまでの繰り返しで、人として成長し、高みに上っていくと共に私は信じています。現代は社会全体が絶えず多様に変革していく時代です。善かれあしかれ今の時代がずっと続くなっています。しかし、それは、例えば学生主体で動きだされ、地域を守る「なまなま元気」あります。本学は「12パーソン1サーキュラー」をスローガンに、課外活動やボランティア活動などを励んで視野や、地域を広げる活動からもうかがえます。本学は「12パーソン1サーキュラー」を用いて、自分からボールを投げてみるとなることもあります。しかし、身構えていては相手も固くなってしまいますが、最初は「こんなにちは」ではありません。勇気が要るかもしれない。人には嫌われたらどうしようかと臆病になります。ボールはきっと相手からも返ってくるはず。もし失敗したら、それでも、満足はできません。他の人が、自分からボールを投げてみるとなることもあります。しかし、自分の世界で思い通りにいかず壁にぶつかることがあるかもしれません。それが乗り越えた経験こそが何よりも大きいです。また、当たり前のように思っていた自分の環境がとても恵まれていてることに気付き、感謝するきっかけになるかもしれません。

グローバル人材を目指す仲間と共に、世界への1歩を踏み出しましょう。

## 「GAP短期集中トライアル」修了報告

今年度から始動した「GAP(グローバル・アクティブ・プログラム)」に先駆け、昨年度「GAP短期集中トライアル」として、38人の学生を対象に7週間限定の英語学習を行いました。参加した学生のTOEIC®スコアは平均で110点アップし、300点以上伸ばした人もいます。去る3月には、英国・オックスフォード大学での研修も経験し、それぞれの成長を実感できる大変有意義な機会となりました。



英国ではオックスフォード大学にて授業の受講や現地の学生と共にグループワークを実施した。

### TOEIC®のスコアが300点以上アップ。苦手の英語が好きになった

「実は英語はあまり好きではありませんでした」と話す佐々木さん。しかし、東京の建築設計事務所のインターンシップに参加したことがきっかけで「英語を学びたい」と強く思ったそうです。自分以外のインターナン生はすべて外国人。英語が得意ならもっとコミュニケーションができるはずだ、と悔やみました。一念発起して英語の自主勉強を開始。そのとき本学学生用ポータルサイトで「GAP短期集中トライアル」のことを知り、すぐに申し込みました。授業が始まっています回目のTOEIC®模試ではスコアが80点しか上がりません、冬休みは実家に帰らずに自宅で猛勉強。

工学部 建築学科 4年次生  
佐々木 夏輝さん



自宅でもタブレット端末を活用し、e-learning+英語アプリで猛勉強。

法学部 経営法学科 3年次生  
緒方 佑莉さん



### 頑張ったことが認められ、大きな自信に。一步踏み出せば世界が変わる

セミの先生から「GAP短期集中トライアル」のことを聞き、説明会に参加したという緒方さんは、「TOEIC®100点以上アップ」「英国・オックスフォード研修」という惹き方に魅力を感じ、参加を決めました。

印象的だったのは、テーマに基づいてグループで討議し、英語でプレゼンをするコミュニケーション重視の授業。「人前で話すこと自体が苦手で、初めの英語でのスピーチは手が震えて、頭が真っ白になりました」と話します。しかし積極的に接戦するメンバーの姿勢に刺激を受けた緒方さん。メンバーの励ましもあり、2回目のスピーチでは、気持ち

を切り替えて必死になりました。その結果、その日の内で最も優秀である人に贈られる個人賞に選ばれたのです。

「一生懸命取り組んだことに対して、評価されたことがうれしかったです」と緒方さん。この経験をきっかけに、自分に自信を持つことができたと言います。

2カ月の集中講座でTOEIC®スコアを大きく上昇させ、初めての異国・オックスフォードから戻った緒方さん。「勇気を出して一步踏み出していくこと、これまで恐れていたことが実は楽しく感じ、世界が変わりました。これからの大學生生活は、英語にかかわらず、さまざまなことに挑戦していきたいと思います」。

### 未知の世界に飛び込んで、自分をもっと成長させたい

学内に掲示されていた「GAP短期集中トライアル」のポスターを見て、参加を決めた砂川さん。2年次の春から本学の学生組織である「福岡大学国際交流学生ボランティアチーム(FIT)」で活動し、留学生と交流を深める中で「もっと英語を話したい」という気持ちが高まっていた時でした。

受講中の7週間は英語漬けの毎日。英語でのプレゼンテーションを通じ、大切なのは話す内容で、そのためにはじっくり考えて話さなければいけないことを実感したと言います。また、e-learningの成果もあり、受講後に実

人文学部 教育臨床心理学科 3年次生  
砂川 祐也さん



GAPを通して他学部の人と知り合いになれたのも、収穫の一つ。

# GLOBAL ACTIVE PROGRAM 新プログラム「GAP」今年度から始動 国際社会へ踏み出し活躍できる人材へ

今、そして未来の重要なキーワードは「グローバル」。世界に羽ばたく人材の必要性は高まっていく一方です。このような状況を受け、福岡大学では2013年春から、

「グローバル人材育成推進事業」の一環として新プログラム「GAP(グローバル・アクティブ・プログラム)」を開始。その概要や在学生に対する期待などを黒瀬教務部長に聞きました。



教務部長  
黒瀬 秀樹 教授(理学部)

**アジアの玄関口・福岡で世界に開かれた大学を目指す**  
日本政府は「日本を世界に開かれていく」ことを目的に「留学生30万人計画」を掲げています(※)。留学生を受け入れることで諸外国との人的ネットワークが形成され、その国においてはまるものですが、そればかりでなく、日本自身の国際的な人材力強化にもつながります。今、「グローバル」というキーワードは日本だけでなく世界のどの国においても言えることです。それでもかわらず、日本から海外へ留学する学生は減少傾向にあるといわれています。住み慣れた国を一歩踏み出し、海外で学ぶことの意義は、自分とは異なる文化や価値観に触れ、視野を広げることです。世界的に人の流れが拡大すれば、国内においても外国人と同じ環境で働く機会が増えるでしょう。これはつまり日本で働くとしても、語学力やコミュニケーション力を持つグローバル人

福岡大学は創立以来、地域社会の要請に応えながら教育、研究、総合大学として発展してきました。また、国際センターや留学生別科を中心とした派遣や受け入れを促進し、海外協定校数を拡大するなど国際化を進めてきました。そして2013年度から、「地域性」と「国際性」の共存を教育理念の一つに掲げる本学は、グローバル人材の育成を目的に、「GAP」を開始しました。グローバル人材とは高いコミュニケーション能力に加え、未知の世界や異なる国籍・文化を持つ人に対しても堂々と飛び込んでいくタイプの精神力を持った人を指します。「GAP」により、学生の皆さんには、地域を支える力と国際的に活躍できる実力の両面を磨いてほしいと願っています。

「GAP」には、海外研修や留学を内容とする科目のほか、海外渡航をする前に、語学力とコミュニケーションの道具としての英語力を高めるための科目や講座を設置しています。英語が苦手な人でもコミュニケーション能力を高めるための科目や講座を設置している。語学力とコミュニケーション能力を高めるための科目や講座を設置している。英語が苦手な人でもコミュニケーション能力を高めるための科目や講座を設置している。

100点アップは可能です。本格化するグローバル社会で世界を舞台に活躍する人材になるための第一歩を踏み出してください。

材の重要性が一層高まっていくことにはなりません。このような時代の要請に応えるため、アジアの玄関口・福岡に位置する本学では、今年度から「GAP(グローバル・アクティブ・プログラム)」を本格始動します。



File.4

**資格を取得してキャリアアップしたい。**

**資格取得の強い味方  
エクステンションセンター**

「エクステンションセンター」は、各種資格取得や採用試験に向けての対策講座を数多く開講しています。学内で受講できるため移動時間のロスがなく、受講料も相対的に安価、キャンパススケジュールに合わせた講座日程が魅力です。



**D**

**教員や学芸員などを目指す皆さんの支援  
「教職課程教育センター」**

教職相談室では豊富な現場経験を持つ教員が相談に乗ります。また、教職資料室には教員採用試験関係の資料類がそろっています。



**E**

File.5

**ココロやカラダもサポートしてくれますか。**

**もちろんです。気軽にご利用ください。**

**■ヒューマンディベロップメント(HD)センター**

学生生活での悩み、不安についてカウンセラー(臨床心理士)が相談を受けます。どんなことでも相談してください。相談は予約制になっています。詳細は受付に問い合わせてください。秘密は守ります。



**F**

**■健康管理センター**

けがや病気になったときに応急処置ができます。また、身体に悩みがあるときも気軽に相談してください。ほかの病院への紹介も行います。  
(商学部第二部は商学部事務室に設置)



**G**

特集②

# 福岡 大学

## キャンパス マップ付き 便利ファイル

あんなとき、こんなとき、さあどうしよう。  
新入生、そして在学生の皆さん、「そんなとき」に  
大いに役立つキャンパス内の施設やシステムをマップ付きで  
ピックアップ。さあ、このファイルとマップを使いこなして、  
充実したキャンパス生活を送ろう。

各施設の場所は次のページのマップで確認できます。



File.1

**知に出会い、知に触れたい。**

**新しい中央図書館を、その拠点にしよう。**

**A**

2012年に誕生した「福岡大学中央図書館」は、総収納能力約188万冊という規模と先進性を兼ね備えた全国屈指の大学図書館です。データベースやAV資料を含む豊富な学術資料とグループ学習室やラーニング・コモンズといった多彩な施設で、学生の自主的な学習を支援しています。中央図書館のほかに、医学部分館、理学部・工学部・美学部・スポーツ科学部の分室があり、各図書館(室)間で資料の取り寄せもできます。図書館は「知の宝庫」、大学生活の「学びの拠点」です。



■ グループ学習室

図書館の資料を活用したゼミ活動、グループによる共同研究・学習・プレゼンテーションを行うための部屋。パソコンや電卓などを持ち込んでの学習も可能です。



■ ラーニング・コモンズ

学生同士がコミュニケーションを取り合い共同で学ぶためのスペース。大学院生のライブラリーアシスタント(LA)が待機しており、レポートや論文作成のための情報収集や活用方法、論理的文章の書き方などを学ぶことができます。



■ 情報サービス室

学生の情報活用能力向上を目的とした部屋。情報検索用パソコンを利用した資料・情報収集、レポート・論文作成、オンデマンドプリントシステムによるプリントアウトなどが可能です。

File.3

**キャンパスライフ を充実させたい。**

**学生課**が応援します。  
しっかり支えます。

落とし物をした(落とし物を拾った)、住所が変わったなどの学生生活全般に関するご相談、課外活動、福利厚生や奨学金の申し込み・継続、ボランティア活動の情報提供など、在学生の皆さんとのキャンパスライフを応援しサポートするのが学生課の仕事です。何があったときは1人で悩まずに、まずは「学生課」の窓口に相談してください。

● その他にも ●

- 交通事故、訪問販売、盗難、災害、痴漢被害などのトラブル
- 学生プロフィール内容の変更
- 自動車通学の登録
- アルバイトの紹介



**ボランティアをしたいと思ったら学生課へ**

福岡大学ではボランティア活動を積極的に支援しています。「学生課」に窓口を設けて募集情報を提供しています。また「ボランティア入門講座」も開講しています。本学の学生が地域防犯活動に取り組む「ななくま元気にするっ隊」や、2011年、2012年には東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」が活動しました。

File.2

**世界を知りたい、世界で学びたい。**

**始めるきっかけは国際センター**

福岡大学では、国際舞台で活躍できる人材を育成する「グローバル人材育成推進事業」を展開しています。在学生の皆さんの留学や海外研修などの参加を支援しているのが「国際センター」です。同センターではFIT(福岡大学国際交流学生ボランティアチーム)の加入やホストファミリーの申し込みも受け付けています。留学経験者の話を聞いたり、留学先の資料を見たりして、異国での学びに挑戦してみてください。



## CAMPUS MAP



## 好きな授業を PICK UP!

### 専門教育科目「演習Ⅱ」

中村 由依 経済学部 准教授

開発経済の知識を専門的に深めていきます。世界の貧困削減を促進し、貧困から生じる社会の深刻な問題を解決するために何ができるか議論を重ねます。ほかのゼミや海外の大学との報告会で刺激し合うことも積極的です。

#### 竹藤さんメモ①

職器充實・児童労働など貧困から生じる社会問題を学び、それに対する自分の考えを発表します。事前にテキストを予習し、プレゼンする過程は、社会に出てからも役立ちます。



### 専門教育科目「外書講読ⅡA(英語)」

永江 真夫 経済学部 教授

基本的な英文を正確に翻訳し、その内容を理解することを目指します。今年度はスポーツに焦点を当て、プロスポーツのビジネスモデルや実業団スポーツの隆盛と衰退など、さまざまな切り口の論稿を読み解いていきます。



#### 竹藤さんメモ②

英語の論稿を読み、日本語に翻訳しながら社会問題を学びます。ビジネスとスポーツの関係など身近なテーマの経済的知識を身に付けてから、外国語学習までできる内容の濃い90分です。



## 踏み出し、広がる自分へ —ゼミ学習—

### グループでのプレゼン演習や 他ゼミ・海外との交流の機会に恵まれています。

竹藤さんが所属する中村ゼミは18人が在籍し、うち女性は2人。このゼミを選んだ理由を竹藤さんに尋ねると「とにかく知識を深めたい」と思い、厳しい、そしてあたたかく指導してもらえる中村ゼミにしました。3人程度のグループを作り、自分たちに振り分けられたチャプターのゼミでは教壇に立ち、プレゼンをします。先生はその様子を見ながら、「きちんと聞き手に伝わっていますか?伝わっていないようであれば「質問はないか?尋ねて」と丁寧に

にプレゼンの指導をします。中村先生から見た竹藤さんの印象は「みんなを盛り上げまとめてくれるムードメーカーです。彼女が声を掛けるとみんな快く集まってくれます」。ほかのゼミや海外の大学と合同でプレゼンの練習をする時も積極的で、ゼミ外の横の交流も大事にしています。また中村ゼミは総の結束も強く、竹藤さんは「卒業した先輩に勉強を教えてもらいたい一心でタブレット端末を使いビデオ通話で連絡をすることもある」そうです。



## 竹藤さんに聞きました! .....

### (Question & Answer)

**Q 正課外でチャレンジした経験は?**

**Q キャンパスライフを1文字で例えると?**

**「力」**

友人に誘われ、「福大生ステップアッププログラム(FSP)」の1つ「学生チャレンジプロジェクト」に参加しました。福岡大学の防災をテーマに、日ごろ会いできない地域住民の方や消防署の方に話を聞き、最後は大きなイベントも成功させ、貴重な経験をしました。

ゼミでの学習をはじめ、隙間時間のない大学生活のおかげか、自分の能力が大きく伸びたと感じています。何事も全力で当たり、努力を続けるという力も身に付きました。

#### [アルバイトがある日の平均的なスケジュール]



ゼミとの出合いでも知った  
思いがけない「学ぶ楽しさ」  
そこから踏み出せた  
次の夢への第一歩

ルがぎっしりと詰まっています。  
大学入学期に「貴重な4年間だから、できるだけ多くの経験をしよう」と心に決めて以来、TOEIC受験、韓国語の勉強、プレゼン能力の向上など、常に幾つかの目標を掲げてきました。元来向向きな竹藤さんですが、その性格の毎日は「とてもパワフル」普段は授業や仕事を務めるゼミ、資格取得やアルバイトに積極的に取り組み、長期休暇中には語学研修にもチャレンジするなどスケジュ

伝えることの達成感がありました。人に説明するためには話し手がプレゼンの内容を深く理解しておく必要がります。聞き手の心に届く遊びや話し方も大切になります。最初は必要な言葉を並べて伝えたつもりでいましたが、それでは伝わる聞き手には全く伝わらず、「どうすれば伝わるのか仲間と話し合い、試行錯誤を繰り返す日々でした」と、竹藤さん。

ゼミで鍛えられ、自分の意見を発表することを面白く感じ始めていた2年次での2月、韓国で行われたワークショップで大きな壁にぶつかりました。ゼミのメンバーと韓国的学生とが経済キストの解説をしていくという経験は、高校までの授業とは180度違って新鮮な驚きと

自分の意見と理解力が足りず、残念ながらこの経験が竹藤さんの向上心に火を付けました。「海外でも物おじせず、上手にプレゼンができるようになりたい」と。帰国後は、学内ゼミの先輩を見つけては積極的に声掛け、勉強を教えてもらうよう努めました。

そして挫折から半年後の3年次の夏、国際センターのサポートを受け、再び韓国蔚山大学での語学研修に参加し、自分自身の成長を感じました。ゼミに入ったことをきっかけに、フレゼンや国際交流の面白さに目覚め、「歩みを踏み出した竹藤さん」「海外でも活躍できる人になる」という新たな目標に向かって今日も前進あるのみです。

## 充実 Campus Life

自分だけのキャンパスライフがある、ここならきっと見つけられる。  
例えば、ゼミがきっかけで広がる世界へと踏み出した竹藤さんのように。



経済学部経済学科 4年次生  
**竹藤 千翔さん**

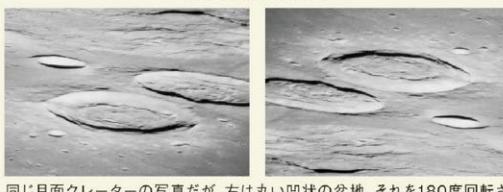


1 学食の第一食堂で、友人とともに授業の予習やプレゼンの練習を重ねる 2 友人と挑戦した「学生チャレンジプロジェクト」の集大成ともいえるワークショップの様子 3 将来の夢を叶えるため、今は就職活動に情熱を注ぐ竹藤さん。裏方に求人票を確認中 4 発展途上国の子どもにワクチンを届けるためにペットボトルのキャップを集めている習慣だそう 5 ノートには板書するためのグラフや質問が来た場合のシミュレーションなどを予習がびっしり

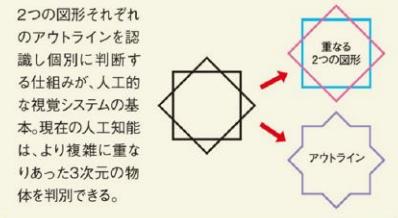
自分の言葉で意見を伝える力を磨き  
海外でも活躍できる人材になる

# 先生の研究

## 【不良設定問題の例】



同じ月面クレーターの写真だが、左は丸い凹状の盆地。それを180度回転させた右は、丸い凸状の台地に見える。(写真の出典:NASAウェブサイト)



2つの图形それぞれのアウトラインを認識する仕組みが、人工的な視覚システムの基本。現在の人工知能は、より複雑に重なった3次元の物体を判別できる。

## 「情報の量が情報の質を変える」

先生は、視覚の次に、同じく人工知能の研究分野の一つである「人の集団としての意思伝達

『その言葉を納得させる研究成果の一部が次のとおりです。まずは本学の研究機関「国際火山噴火史情報研究所」の一員として「地質調査のフィールドワーク資料の管理ソフト」を開発しました。「情報を集めることが困難な各

地の地質情報をデータベース化することで、地質学の裾野が広がり、地震時の防災へもつながります」と先生は胸を張ります。また、ディスプレーにバーチャル画像と情報を重ねて表示す

る「AR拡張現実」を使い、遺跡の当時の様子を再現するシステムの提案を福岡県宗像市役所で行っています。さらに「将来的には、冒頭で紹介した指導大代わりの誘導装置や、目が不自然な人のための人工網膜の開発などを考

えます。誘導装置は、3次元計測で認識した後に、その状況が危険か安全かを正確に判断する

能力を高めること、人工網膜は、カメラを通じた電気信号を脳や神経細胞にどのような形でつなげるかを探る研究となります」と今後の目標を話します。このように人工知能の研究は、未来の画期的な医療や精度の高い防災への貢献など、広く社会生活を充実させることにつながる分野なのです。

先生は、視覚の次に、同じく人工知能の研究



パソコン上でAR(拡張現実)を解説。一般的なARにはバーチャル画像を配置するためのマーカーを設定することが必要だが、先生の研究対象としているシステムには不要。これを使い、宗像市の遺跡の様子を再現する提案を同市に行っている。

先生は福岡大学教員サッカーチームのキャプテンも務める。写真は韓国で行われた教員サッカー大会時のもの。(写真右端が先生)



「私の宝物」と、エジプト人留学生のサイン入り学位論文を手に。



ARを表示した画面には、かわいらしく動く学生がデザインしたオリジナルキャラクターが。

## 研究メモ

### 学生の主体性を促す人工知能の研究

先生は、3人のエジプト人留学生の博士論文を指導した9年間が思い出深いと語ります。「それまでは理論研究こそが大学の仕事をだと思っていましたが、学生と一緒に結論から見直して将来のビジョンを描くことで、他分野の意見を取り入れる大切さを知り、人工知能の研究は複合領域であることをあらためて感じさせられました。人工知能は、人間の豊かな念にも通じる主体性とは」を突き詰めていく神祕的な研究です。この分野を通じて、学生もより主体的な姿勢を持ち、冷静に分析し大胆に決断できる人材に育つてほしいと願っています。」



地質調査のフィールドワーク資料の管理ソフトを説明する。開発に携わった研究室の学生森田謙吾さん(奥)と先生。「情報の利用者が情報の発信者です。膨大に集まる地質の情報を利用することで、防災へつながります。」

Professor  
工学部電子情報工学科 教授  
**鶴田 直之** Naoyuki Tsuruta

# 「ロボットの目」の研究が 未来の産業、医療の扉を開く

さまざまな分野の複合領域「人工知能」の研究

より人間らしい自律性を目指し  
人工知能がロボットに命を吹き込む

盲導犬代わりのポケットサイズの装置が正確な道案内をしてくれるそんな夢みたいな事が現実になろうとしています。現代社会ではすでにさまざまな分野でロボットが実用化されています。例えば製造業の産業ロボットや、医療・介護・福祉のサービスロボット、人間の活動が困難な環境(放射能汚染地域、極寒地、宇宙など)で活躍する災害・観測ロボットなど、近年そのニーズは多岐にわたり増えています。本学工学部電子情報工学科の鶴田先生は、それらロボットにより人間に近い自律性・主体性を与える「人工知能」の研究をしています。「人間の知能や知性を人工的な機械で再現できるか。さらに応用していくかに社会に貢献するものを創造できるかの研究です」と先生は話します。先生の人工知能の研究分野には①「脳神経の解析」、②「言語(音声、視覚などの機能の解明)」、③「人間の行動の意思決定や計画的研究」、④「人の集団としての意思伝達や意思決定の研究」と大きく4つの層があり、特に④に関連する「神経層から機能層にかけての視覚的認識、理解、学習の研究」に力を入れています。「主に「ロボットの目」を作っていると思っていただければ分かりやすいでしょう」と、図形を提示して

問題(posed problem)』という課題に出会ったことです。不良設定問題とは解が意に定まらない問題設定の総称です。自から入る表面的な情報だけでは、数学的に解の出ない問題を月面のクレーターの写真(左上参照)を例に挙げて解説。このような視覚思考に関する「納得のできない問題」が、先生が人工知能の研究に没頭したことだけではなく、進行形の学問。だから工学や情報科学、そして人工知能の分野に興味を持ち続けているのでしょうかね」と目を輝かせます。先生が人工知能の研究に没頭したきっかけは、大学院1年次生の時に「不良設定問題(posed problem)』という課題に出会ったことです。不良設定問題とは解が意に定まらない問題設定の総称です。自から入る表面的な情報だけでは、数学的に解の出ない問題を月面のクレーターの写真(左上参照)を例に挙げて解説。このような視覚思考に関する「納得のできない問題」が、先生をより深い研究へと駆り立てていったのです。

月面のクレーターの写真(左上参照)を例に挙げて解説。このような視覚思考に関する「納得のできない問題」が、先生をより深い研究へと駆り立てていったのです。

## ロボットの目で「観る、診る、視る」 広く社会生活の向上に貢献

「複合領域である人工知能の中でも視覚的認識、理解、学習の研究は「見る」だけでなく「観る」立地でいたのです。

て人工的な視覚システムの仕組みの説明がありました(左上図参照)。また、先生は「人工知能は、工学だけでなく、医学や物理学、社会学、心理学などさまざまな分野を横断する複合領域です」とも付け加えます。それらの視点を合わせて、さまざまな分野でロボットが実用化され、多くの人が活躍する時代が来ています。

# 講義ライブ90分

## 「地理学A・B」

共通教育科目  
総合系列科目 教養ゼミ

### 外国を広く知ることで日本人としてのアイデンティティーを高める



#### グローバルタレントへの第一歩 世界の多様性に目を向ける授業

現在、世界には196の国と複数の地域があり、多様な民族が暮らしています。一方でボーダーレス化はその加速度を増しているようです。このような社会情勢の中、異文化と積極的に交流し、国際的に活動できる「グローバルタレント」へのニーズは今後さらに高まっていくでしょう。地理学A・Bは世界各國・地域の社会や文化を幅広く考察することにより、現実社会の多様性について理解を深めます。担当の磯田先生は「グローバルタレントは言語や文化、生活様式などに精通することが必要、そのような能力を身に付ける第一歩として世界に目を向けることが重要です。『外(外国)』と内(日本)を広く学ぶ授業を通して、国際社会で主体的に生きる意欲を高めてほしい」

#### 学生の積極性や個性を重視 多岐にわたる発表テーマ

少人数の教養ゼミでは、回を経ることに多くの興味が学生の間で波及していくことを望んでいるそうです。

#### 学生の積極性や個性を重視 多岐にわたる発表テーマ

学生間のコミュニケーションが深まります。授業にてキリスト教ではなく、創意工夫を凝らした学生のレジュメとディスカッションによりゼミが展開されていくのです。

今回掲げられたテーマは「イギリス料理」について。担当の学生は「イタリアに行つたらフランク料理を、フランスに行つたら中華料理を」というジョークがあまり好んでいませんでした。なぜこのようなイメージになってしまったのかを調べました」と話してきました。そのユニークな着眼点に笑いが起り、皆の目が好奇心に輝き始めました。

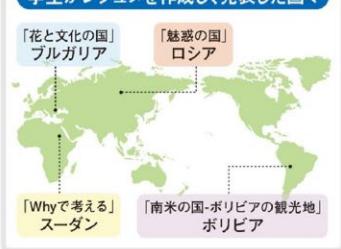
発表では、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4つの国から構成されるイギリスの地理的説明をした後、イギリス料理についての本題を立て、自分で自分の見解を述べていきます。最後に、近年はイギリスもおしゃれ店が増え、日本食も普及しているようですね」と語りました。

「授業では、毎回1人の学生が自作のレジュメに沿って発表し、最後に皆でディスカッションを行います。テーマに選ぶ国やトピックは各自に任せています。海外旅行に行ってみたい国を選ぶ学生もいれば、語学研修で滞在した国について発表する学生もあります。今までの授業では、モロッコやブルガリアなど普段気にかけることが少ない国についての考察もありました」とうれしそうに付け加えました。先生は「プレゼンを通して、その国

換を行います。イギリス人が習慣的に好んで食べる料理は「紅茶にはこだわるイギリス人たが、なぜ食にはあまり興味示さないのか」などの質問が発覚出来ます。その間、先生は学生たちの議論を見守りながら、「イギリス料理」と比較して日本料理の良さは何でしょうかなどを要所で学生に意見を求め、テーマに挙がった内容の補足説明も行います。「ディスカッション」というと少し身構えてしまいそうですが、授業は思ったことを言い合える肩肘張らないフレンドストーミングのよくな雰囲気。この日の授業でも全員が積極的に発言しました。

「外(國)・異文化について広く知り自由に語り合うことで日本人としてのアイデンティティーを再確認し、留学生は母国についてより深めてほしい」と話す先生。その思いが十分に伝わる授業内容でした。学生は世界の國々や地域に関する幅広く、豊かな知識、教養を学ぶと共に、自己主張するプレゼン能力も身に付けることで、国際社会に踏み出すための基礎を作っているのです。

#### 学生がレジュメを作成し、発表した国々



個性が集まる教養ゼミで  
学びへの意欲が増しました。

商学部貿易学科 馬場 こゆきさん

異なる学部、学年の人気が集まっている教養ゼミは刺激的です。自分で調べて、知識を深めていくといふほどの勉強にも通じる大切なことを経験できました。ほかの学生が発表している時も質問内容を考えながら、意欲的に取り組むことができたのも、少人数のゼミならではだと思います。知識豊かな先生の説明も分かりやすく、理解が深まりました。

#### Student's voice



世界遺産について発表  
実りのある授業でした。

理学部応用数学科 岡本 夏実さん

地理に興味があったことが受講のきっかけですが、芸術や文化に至るまで、さまざまな分野で世界のことが学べる授業でした。私は、世界遺産やテレビを見て感動したボリビアの「ウユニ塩湖」について発表しました。普段の生活の中で人前で発表する機会が少なく緊張しましたが、ボリビアの魅力を存分に伝えることができたと思います。

#### My teaching style



磯田 則彦 人文学部文化学科 教授

専門ゼミは掘り下げて学びますが、教養ゼミである本授業は「現実世界の多様性」について幅広く学んでいます。各自が興味を持った国についてレジュメを作成し発表することで、日本と諸外国の違いを認識し、日本社会・文化の特徴を理解し、日本人としてのアイデンティティーを確立するステップアップに繋げたいのです。学生が作成するレジュメは、写真だけでなく図表や新聞記事などを使い、完成度の高さにはいつも驚かされます。

学年や学部を問わず履修できる教養ゼミ「地理学A・B」は、世界の国や地域の社会、文化を幅広く学び、国際社会を主体的に生きるために教養を深める授業です。少人数クラスでの分担発表（ディスカッション）により、プレゼン力も身に付けています。





いつでも自分らしく、  
しなやかに。  
女性の視点で提案する  
住まいと暮らし。

株式会社LIXIL 営業カンパニー  
ビルプロジェクト統括部 ビル営業部  
ビル営業開発グループ  
**田中 亜紀さん**  
人文部学部フランス語学科 2003年卒業



語学研修にボランティア  
多彩な交流で充実した学生時代

東京都・新宿区にある高層ビル内のショールーム。厚いビジネス手帳と商品カタログをお客さまに応対する田中亜紀さん。視線を真っすぐ相手に向け、要望や質問を柔らかく受け止めて、丁寧に誠実に答えています。その様子を見て「しなやか」という言葉がふと浮かびました。ソフトでスマートで、何よりも「しなやかさを持った人」。

貴重な時間を預いてのインタビュー。まずは田中さんのこれまでを聞きました。高校時代から語学で大きな体験が強く、英語以外の言語も学びたって本学人文部フランス語学科へ。大学時代に貴重な体験となったのは、ベルギー、フランスへの語学研修でした。「約1ヶ月間の海外生活。実家住まいの私にとっては、現地の大学祭のキッキンで自炊をすることも、友人と共同生活を送ることも初めて。とにかくすべてが刺激的で、勉強になりました」と当時を振り返ります。

語学研修と同じくらい忘れられない大学時代の体験。それは2002年に日本で共催された「FIFAワールドカップ」です。田中さんは、この4年に一度のビッグイベントにボランティアとして参加しました。きっかけは新聞のボランティア募集の記事。これまでに培ってきた語学力を生かし、大好きなサッカーにかかわりを持てるまたとないチャンスでした。早速応募し、見事に採用。半年の研修期間を経て、大分市でアテンド試合時に海外から応援に来たサポートの講導係を務めました。大学の長期休暇中でもなしあかも就職活動の真最中。大分市への行き来も大変でしたが、田中さんにとってこれがえのない経験となりました。

入社後初めて担当した商品であるキッチンは、今でも愛着があるそう。「ダイバーシティー(多様性)が求められる時代ですから、これからも私なりの視点で選ばれる商品を生み出していくたい」と田中さん。



# 時代を駆ける先輩たち



現在はアルミサッシや玄関戸などの金属製建具を担当。  
断熱や環境への配慮もお客様によく聞かれるそう。

が少なくなかつたそうです。その上司があ  
る時、田中さんにこんなアドバイスを  
くれました。「社内へ行き詰まつたら、お  
客さまと真っすぐに向き合えよ、おの  
ずとやるべきことは見えてくる。お客さ  
まのことこそ本当に第一に考えるなら、社  
内でもめる暇などないはず。まずニーズ  
に応える商品を、サービスを提供するこ  
と。そうすれば結果は後から付いてくる。  
結果が出れば周囲も理解してくれるよ  
うになる。そして上司は最後にこう付け  
加えました「君が必要とされる場所が  
君の根を張る場所なんだ」と田

中さんは言います「企業の所属している  
限りは、商品を一人で作れない限りは、孤  
軍奮闘ということはあり得ないはずだ  
のです」しかし伝わらない悔しさがい  
つか田中さんを孤立させていたのかも  
りません。「かたくなになっていた自分  
が緩やかに解けていくような感覚でし  
が少なくなつたそうです。その上司が



ベルギー、フランスの語学研修では「見るも  
のすべてが新鮮だった」と田中さん。もし今  
学生時代に戻れるなら「今度はもっと学  
習がしたい」とか。左から2番目が本人。

就職活動に関するエピソードも、田中  
さんらしさにあふれています。現在の会  
社に入社するきっかけは大好きなサッ  
カーフラントでした。当時はいわゆる就職  
氷河期。田中さんも約30社にエントリー  
し、受けたは落ちての繰り返しでした。業  
界は絶対に職種をルート営業に定め  
て探していましたが、数ある企業の中で  
もひとときも輝いて見えたのが「トステム  
株式会社(2011年より株式会社  
LIXIL)」でした。幼いころからイン  
テリアや建材に興味があった田中さん  
は、就職活動中、大好きなサッカーの親戦

中に、ある強豪チームのスポンサーだつ  
た同社に注目したのです。田中さんは当  
時の思いを2003年の「福岡大学就職  
活動体験記」でこう書いています。「自分  
らしく事ができるか就職先決定の  
指針にしました。就職活動は絶対に忘れ  
たくない良い経験でした。こうして8  
ヶ月にわたる苦闘を乗り越え内定を獲  
得し、田中さんは社会人としての第一歩  
を踏み出しました。

柔軟な感性でチャレンジをつかみ、そこ  
での困難な気持ちは揺れても決して折  
れない。すべての経験を成長の肥料にし  
ていく。福岡市・七隈のキャンパスという  
豊かな土壤ではぐくまれた木は、この時  
から「しなやか」という「自分らしい」特性  
を備えていました。

最初は専門知識も乏しく、営業の場で気  
味が悪いなどと悩んでいましたが、勉強を重ね  
ていくうちに自信を持つて提案ができる  
ようになります。次第にお客さまからも「田中さん  
のいいキッチンやバスを提供するのな  
ど、私の女性視点が少しは役に立つの  
だ」と考ふました。

最初は専門知識も乏しく、営業の場で気  
味が悪いなどと悩んでいましたが、勉強を重ね  
ていくうちに自信を持つて提案ができる  
ようになります。次第にお客さまからも「田中さん  
のいいキッチンやバスを提供するのな  
ど、私の女性視点が少しは役に立つの  
だ」と考ふました。



「FIFAワールドカップ」のボランティア時は、サッカーという共通項  
を通じて国を越えた友情が深まった。右から3番目が本人。

でにジェンダーフリーが呼ばれ、男女同  
権が当たり前になつてたとはいえ、不  
動産建売はまだ男性が多數を占め  
る業界。マンションの建設現場では、父親  
より年上の方から激しく怒鳴られ、落ち  
込むこともあります。ちょうど、年齢や経験、体  
力面ではどうていかなわない。どうした  
らあの方たちと肩を並べて仕事ができる  
だろう。田中さんは自分と向き合い、持  
ち味を模索するようになります。ちょうど、  
そのころ、担当していた商品は新築  
マンションに導入するキッチンやバス  
などの水回り関連のものでした。しかし  
も製品をカタログから選ぶわけでは  
なく、完成予定の住居に合わせて1~3畠  
位で作っていくフルオーダーメイドです。  
田中さんは「主婦層にとって使い勝手  
のいいキッチンやバスを提供するのな  
ど、私の女性視点が少しは役に立つの  
だ」と考ふました。

最初は専門知識も乏しく、営業の場で気  
味が悪いなどと悩んでいましたが、勉強を重ね  
ていくうちに自信を持つて提案ができる  
ようになります。次第にお客さまからも「田中さん  
のいいキッチンやバスを提供するのな  
ど、私の女性視点が少しは役に立つの  
だ」と考ふました。

最初は専門知識も乏しく、営業の場で気  
味が悪いなどと悩んでいましたが、勉強を重ね  
ていくうちに自信を持つて提案ができる  
ようになります。次第にお客さまからも「田中さん  
のいいキッチンやバスを提供するのな  
ど、私の女性視点が少しは役に立つの  
だ」と考ふました。

最初は専門知識も乏しく、営業の場で気  
味が悪いなどと悩んでいましたが、勉強を重ね  
ていくうちに自信を持つて提案ができる  
ようになります。次第にお客さまからも「田中さん  
のいいキッチンやバスを提供するのな  
ど、私の女性視点が少しは役に立つの  
だ」と考ふました。



普段は取引先の企業を飛び回る  
田中さんにとってのホームは、  
この[LIXIL]のショールーム。

でにジェンダーフリーが呼ばれ、男女同  
権が当たり前になつてたとはいえ、不  
動産建売はまだ男性が多數を占め  
る業界。マンションの建設現場では、父親  
より年上の方から激しく怒鳴られ、落ち  
込むこともあります。ちょうど、年齢や経験、体  
力面ではどうていかなわない。どうした  
らあの方たちと肩を並べて仕事ができる  
だろう。田中さんは自分と向き合い、持  
ち味を模索するようになります。ちょうど、  
そのころ、担当していた商品は新築  
マンションに導入するキッチンやバス  
などの水回り関連のものでした。しかし  
も製品をカタログから選ぶわけでは  
なく、完成予定の住居に合わせて1~3畠  
位で作っていくフルオーダーメイドです。  
田中さんは「主婦層にとって使い勝手  
のいいキッチンやバスを提供するのな  
ど、私の女性視点が少しは役に立つの  
だ」と考ふました。

最初は専門知識も乏しく、営業の場で気  
味が悪いなどと悩んでいましたが、勉強を重ね  
ていくうちに自信を持つて提案ができる  
ようになります。次第にお客さまからも「田中さん  
のいいキッチンやバスを提供するのな  
ど、私の女性視点が少しは役に立つの  
だ」と考ふました。

就職氷河期の苦難も  
しなやかな感性で乗り切る



「FIFAワールドカップ」のボランティア時は、サッカーという共通項  
を通じて国を越えた友情が深まった。右から3番目が本人。



就職活動中に「トステム(現・株式会社LIXIL)」に送った履歴書のコピー、「就職・進路支援センターに通った日々が懐かしい」と田中さん。

# 就活メモリー

## ① INFORMATION 就職・進路支援センター からのお知らせ

先輩たちのあの日、あの時。そのリアルな経験を在学生の皆さんに。

就職・進路支援センターでは、学生の皆さんが安心して就職活動に取り組めるように体制を整えて、サポートしています。

### 就職・進路支援センターの支援体制

就職・進路支援センターでは、「センタースタッフ」「進路相談員（就職アドバイザー）」「キャリアカウンセラー」が就職活動や進路について相談に応じています。進路に関する悩みの相談や履歴書・エントリーシートの添削、面接指導、各種手続きなど就職活動におけるさまざまな相談に応じてアドバイスします。

1人で悩んでも解決の糸口はなかなか見つかりません。気軽にセンター（1号館）を訪ねて、不安を解消しましょう。

### センタースタッフ

就職・進路支援センターのサポート フロアに「専任のスタッフ」が常駐しています。

予約は不要です。

### 相談対応時間

●月～金曜日…8:50～21:20  
終了時間は時期によって変更になります。  
16:50以降は専門部第二部の学生を優先します。

●土曜日…8:50～12:35  
(夏季休業期間は閉室)

### 進路相談員（就職アドバイザー）

企業の人事・採用経験者です。  
予約は不要です。

### 相談対応時間

●月、火、木曜日…13:30～19:00  
●水、金曜日…11:15～19:00

### キャリアカウンセラー

職業選択やキャリア開発を支援するプロセスを体系的に学んだ経験豊かな相談員です。

予約が必要です。予約方法は就職・進路支援センター窓口で尋ねてください。

### 相談対応時間

●月、水、金曜日…12:30～17:30  
なお、7月～9月、11月、1月は水・金曜日

### 支援行事

就職・進路支援センターでは、就職や進路支援についてのさまざまな行事を開催しています。詳しくは、FUポータルや学内掲示、就職・進路支援センターのウェブサイトを確認してください。



から信頼され、頼られる金融のプロになることがあります。そのためには、専門性の高い知識の獲得が欠かせません。今は銀行業務に必要な税務や財務の資格試験を受けるため、学生のとき以上に勉強しています。すると意欲満々。銀行のプロフェッショナルを目指して、今吉さんが挑戦はこれからが本格的なスタートです。

友人たちを相手に模擬面接  
先輩行員の話で企業像が明確に  
就職活動を本格的に始めたのは3年次の

今吉さんは大学時代、ソフトテニス部で活動しました。中学、高校でもソフトテニス部だったことから迷わず部内では、試合の手続き、部員約30人の選抜の手配やOBA会の運営なども担当しました。同期は昭和20年代から長い歴史がある部のため、幅広い世代のOBAがいます。そのOBA会を担当することによって、大人としての礼儀作法も学びました。「学生時代にさまざまな年代の方と一緒に運営を始めた経験は今の仕事にも大きい役立っています」と今吉さんは振り返ります。4年次の8月まで現役選手として試合に出場する傍ら、就職活動や教員免許状の取得にも取り組みました。多忙を極めた結果、自分が活動を続けることができました。「忙い間にメリハリができる、就職活動もうまくいった」とか、「文武両道」の充実した4年間でした。



株式会社鹿児島銀行  
経済学部経済学科 2009年卒業  
今吉 大さん



横田さんは大学院に進むことで2度の就職活動ができました。1度の活動で就職する自信は持っていましたが、2度目の活動で就職する自信を持っていた。特にそこまで働いていた先輩の話は参考になります。自分がいる業界だけの就職活動ではなく、一生続けられる仕事を思って、まずは幅広く仕事を探すことが大切です。

興味の幅を自ら求めないこと  
仕事選びの選択肢は広く持つ  
最初は興味の幅を狭めず、幅広い業種を見て、さまざま異なる意見を聞いてください。特にそこまで働いていた先輩の話は参考になります。自分がいる業界だけの就職活動ではなく、一生続けられる仕事を思って、まずは幅広く仕事を探すことが大切です。

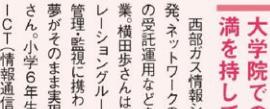
横田さんは大学院に進むことで2度の就職活動ができました。1度の活動で就職する自信は持っていましたが、2度目の活動で就職する自信を持っていた。特にそこまで働いていた先輩の話は参考になります。自分がいる業界だけの就職活動ではなく、一生続けられる仕事を思って、まずは幅広く仕事を探すことが大切です。



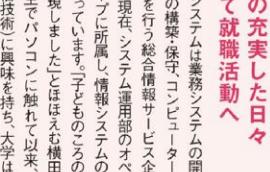
西部ガス情報システム株式会社  
工学部電子情報工学科 2010年卒業  
工学研究科電子情報工学専攻[博士課程] 2012年修了  
横田 歩さん

**課外活動で磨かれたコミュニケーション能力**  
鹿児島銀行に勤務する今吉大さん。入行後は鹿児島県の伊集院支店で配属され、窓口業務を経験。その後、2012年8月に宮崎県の日南支店に異動になり、現在は法人営業を担当しています。「資金繰りの相談や財務の改善など、企業経営のサポートを行っています。地元の企業や小売業など、幅広い業種の社長がお客さまのコミュニケーション能力はもちろんです。業種の専門知識も必要です」と今吉さんは話します。

今吉さんは大学時代、ソフトテニス部で活動しました。中学、高校でもソフトテニス部だったことから迷わず部内では、試合の手続き、部員約30人の選抜の手配やOB会の運営なども担当しました。同期は昭和20年代から長い歴史がある部のため、幅広い世代のOBAがいます。そのOBA会を担当することによって、大人としての礼儀作法も学びました。「学生時代にさまざまな年代の方と一緒に運営を始めた経験は今の仕事にも大きい役立っています」と今吉さんは振り返ります。4年次の8月まで現役選手として試合に出場する傍ら、就職活動や教員免許状の取得にも取り組みました。多忙を極めた結果、自分が活動を続けることができました。「忙い間にメリハリができる、就職活動もうまくいった」とか、「文武両道」の充実した4年間でした。



株式会社鹿児島銀行  
経済学部経済学科 2009年卒業  
今吉 大さん



## 文武両道の大学生活が評価され 第一志望の地元銀行に内定

## 目標を定め自分で鍛えていく その成長期間は長いほど良い



横田さんは大学院に進むことで2度の就職活動ができました。1度の活動で就職する自信は持っていましたが、2度目の活動で就職する自信を持っていた。特にそこまで働いていた先輩の話は参考になります。自分がいる業界だけの就職活動ではなく、一生続けられる仕事を思って、まずは幅広く仕事を探すことが大切です。

横田さんは大学院に進むことで2度の就職活動ができました。1度の活動で就職する自信は持っていましたが、2度目の活動で就職する自信を持っていた。特にそこまで働いていた先輩の話は参考になります。自分がいる業界だけの就職活動ではなく、一生続けられる仕事を思って、まずは幅広く仕事を探すことが大切です。

横田さんは大学院に進むことで2度の就職活動ができました。1度の活動で就職する自信は持っていましたが、2度目の活動で就職する自信を持っていた。特にそこまで働いていた先輩の話は参考になります。自分がいる業界だけの就職活動ではなく、一生続けられる仕事を思って、まずは幅広く仕事を探すことが大切です。



西部ガス情報システム株式会社  
工学部電子情報工学科 2010年卒業  
工学研究科電子情報工学専攻[博士課程] 2012年修了  
横田 歩さん



診中、患者さんの気持ちを落ち着けるように手に触れる。



内耳の蝸牛に細い電極を植え込み、聴覚を助ける人工内耳。



## 運命に導かれて 研究から臨床の分野へ 国内屈指の手術実績を残す

中川先生が耳鼻咽喉科に進んだ理由を尋ねると「外科も内科も自分で相当できる専門医だから」という力強い答えが返ってきました。若い時から独立心が旺盛で、医学部へ入学したのも手に職をつけるためでした。医師なら一般臨床の道も研究者の道もあり、場所を問わず個人でやっていけますから」。こうして耳鼻咽喉科医としての第一歩を踏み出した中川先生に、一つの転機が訪れます。医局に所属していたところ、進めていた基礎研究が国内外から注目を浴びることになったのです。内耳を構成する各器官のうち、聴覚をつかさどる「感覺器官」蝸牛におけるエネルギー物質ATPの働きについての学位論文を発表。当時、同じテーマで発表された論文はなく、この分野の先駆者として世界中から高く評価されました。その後、「蝸牛におけるATPの働き」は研究者の間で注目分野の一つになつたことからも中川先生の先見性がうかがえます。研究者としてさらにはステップアップするため、1995～97年にはアメリカのペイラー大学に留学。日本での研究が細胞生物学のミクロであったのに対し、アメリカでの研究は機械や電気工学の分野に関するマクロな視点を養うことができたそうです。

帰国後、諸般の事情により研究から臨床へ重点を移し、今もライフケアとなっている「耳の腫瘍」という分野に出合います。耳の腫瘍は、文字通り耳のがんとも呼ばれるもので、百万人に一人の珍しい病気です。耳鼻咽喉科医を一生続けてこそその症例に出会わぬ場合もあります。しかし、その確かな施術

中川先生が「耳の腫瘍と同じくらい使命感を持ち取り組んでいるのが『小児難

の評判が伝わって、九州外からも耳の腫瘍手術の依頼が相次ぎ、病棟には先生を頼ってきて複数の患者さんがいました。研究分野だけではなく臨床でも実績を残した中川先生。当時振り返り、「正直に言うと、もう少し研究を続けていたかったという気持ちがありました。しかし、アメリカ留学のおかげで顕微鏡の使い方には自信を持つことができましたし、目の前の症状や結果からさかのぼって原因を究明していく医学的アプローチは、蝸牛の生理解剖研究が背景にあったからこそ確立できたものです。研究分野から離れた時は、回り道をして研究の最新レベルから取り残されそうなる焦りを感じましたが、結果的にはそれが良かった人生に無駄ということはありません」。

中川先生が約15年間で執刀してきた耳の腫瘍手術は、実際に100例前後になります。「国内で日常的に耳の腫瘍手術を執刀する医師は片手で足りるほどしかいません」。ハウの共著を求める書籍からの原稿執筆依頼や海外での講演依頼も増えています。一般的耳鼻咽喉科医にとって耳の腫瘍手術が難しい最大の理由は、数多くの症例に出会えないことです。私の持てる経験が役に立つのなら、それを伝えていくことは使命だと考えています」。日本屈指の執刀実績を誇る中川先生は、専門誌へ積極的に寄稿し、イラストで術式を解説する著書を出版するなど、現在と未来の医療界のために惜しみなく力を注いでいます。

ふと気付くと道を開いていた今

脳神経や根神経のすぐ近くを扱う。耳の手術は手術を終える状況が続く。若手医師にとっては、中川先生の手元の動きはもちろん、現場の緊張感から学べることも少なくない。

# ヒポクラテスの系譜

医師として臨床を重んじ、医師の倫理性を大切にした古代ギリシアの「医聖」。  
その精神を現代に受け継ぐ、福岡大学のヒポクラテスを紹介します。

## 研究・臨床・啓蒙・教育と幅広く、 目覚ましい実績を挙げる「耳の名医」

耳鼻咽喉科診療部長 中川 尚志 教授(医学部)

この日、手術室では13歳女性の慢性中耳炎を治療するため鼓室形成術が行われています。約1時間半の手術を執刀した医師は、中川先生ともう一人、1台の顕微鏡を二人でのぞき、指導しながら進めています。複数で見ることが可能な顕微鏡は教育記録用に用意しているものの、福岡大学病院の耳鼻咽喉科では中川先生が赴任してきた2005年以来、指導しながら進めていました。手術を録画して、そして週間分の動画をチーム全員で確認しながらハウを共有。録画した動画をパソコンで編集するの手術を担当した若手医師。スピーディードでも早く進歩したおかげで医師の成長のスピードも早くなっています。そのためのよなサポートで手術が若干滞つたのかどうなサポートで再びスムーズに進められたなどの経緒をあらためて胸に刻み込めるのです。「私が研修医のころは顕微鏡の性能が今のように発達しておらず、先生の手の動きを見て技術や過程を想像することができませんでした。今は医療機器が進歩したおかげで医師の成長のスピードも早くなっています」。

自分一人の経験ではなく、手術の技術のノウハウをチームで共有できるのは大きな利点です。

「編集は見た人に分かりやすくすることができます。そして同じ上位、1週間分の動画をチーム全員で確認しながらハウを返ることが大切なのです」と中川先生は言います。例えば手術中のどこで手順が若干滞つたのかどうなサポートで再びスムーズに進められたなどの経緒をあらためて胸に刻み込めるのです。「私が研修医のころは顕微鏡の性能が今のように発達しておらず、先生の手の動きを見て技術や過程を想像することができませんでした。今は医療機器が進歩したおかげで医師の成長のスピードも早くなっています」。

自分一人の経験ではなく、手術の技術のノウハウをチームで共有できるのは大きな利点です。





# 福岡から九州、沖縄・高知までをもつなぐ 救命医療のネットワークステーション

福岡大学病院

救命救急センター長 石倉 宏恭 教授

ひろやす

## 救急医療の要として ネットワークの強化や 先端技術・知識の導入に取り組む

福岡大学病院には、重篤で緊急を要する患者さんは24時間態勢で受け入れる「救命救急センター」があります。福岡県における救急医療の要の一つであり、そのネットワークは、県下はもとより、九州一円、沖縄にまで拡大中。沖縄での主な取り組みは、べき地・離島での医療活動です。スタッフや設備、搬送手段などに限りあるべき地・離島では限られたマンパワーと医療機器で、効率的かつ安全で質の高い医療を提供しなければなりません。このような課題をクリアするために、「救命救急センター」では救急医を派遣するなどの支援を行っています。また週2回、久留米大学へドクターへりの担当医を派遣し緊急を要する傷病患者をドクターへりで搬送し、救命医療に当たっています。これらの医療活動に加え、今年4月からは、今までに培ったドクターへりのノウハウを生かし、高知県の救急センターともネットワークを結びました。「高知救命救急センター」のドクターへりと連携し、例えは万が二南海トラフ巨大地震が起きたときには被災された重症患者を福岡大学にドクターへりで運ぶ可能性も考えられます」と構想を語る、センター長の石倉

先生。あらゆる想定のもと、救命医療のネットワークをより盤石なものへ。これもセンターの大きな仕事です。

ネットワーク強化のほか、技術・知識の研修も国内外で実施しています。スウェーデンのカロリニスカ研究所では、鳥インフルエンザの対処法を。この研修について石倉先生はこう説明してくれました。「鳥インフルエンザは感染すると肺が真っ白になり呼吸不全で死に至ることもあります。今後、鳥インフルエンザによって、ハンデミック感染症の大規模な流行が起こったとき我々はどうすればいいのか。そのことを知りたかったのです」。ヨーロッパで確立されている一般的な対処法は人工心肺装置を使つものですが、それを医師だけが知つても意味がない。先生は臨床工学技士を同行して、その



「センターを支えているのは、スタッフ全員の使命感と社会への責任感、そしてプライド」と話す石倉先生。

## 先端の医療設備・機器と 質の高い医療スタッフ

具体的な技術や知識を共に修得しました。どのように、ケースに応じて技術や看護師、薬剤師などを現地で研修し、医療スタッフのスキルアップを図るのが、先生の流儀です。

救命救急センターでは、年間約1,000人の患者さんを24時間態勢で受け入れています。「急性の重篤な患者さんであれば、どのような疾患でも引き受けています」と石倉先生。あらゆる症例に対応するため、初療室3室、緊急患者専用CT室、救命救急センター専用病床、ヘリポート、ドクターカーなど多種多様な設備を整えています。また医療機器も、人工肺臓・人工心肺装置、血液浄化装置などの救命医療の先端機器が充実。ハードウェアだけでなく、最新の治療法も数多く導入しています。例えば、心肺停止で運ばれた患者さんを一定期間低温化させる脳低体温療法。これは体温を下げることで脳を保護し、脳の損傷を最小限に抑える療法です。この療法は、医師はもちろん、看護師や技術者にも修練が必要です。

救命救急センターはスタッフの個々の技量の向上だけではなく、量的な確保にも力を入れています。昨年度まで60人だった看護師をこの4月からは30人増員、救急認定看護師を含め96人の看護師が救急治療に対応しています。スタッフの労働環境やローテーションなどに配慮し、常にベストの状態で治療に当たることも大切だと考えているからです。

## 救命治療のさらなる充実のため 外傷センター開設も視野に入れる

「センター付属として外傷専門医による



## TOPICS

### 災害は必ずやってくると想定、 万全の備えで有事に当たる

「このセンターは九州トップクラスとも言える災害拠点病院です。有事の際は、私たちが第一線に立たなければならぬ」と石倉先生。国内外の大規模災害に対して積極的にスタッフを派遣できるよう、災害派遣医療チーム(DMAT)や国際緊急援助隊(JDR)の登録者も在籍しています。「東日本大震災では、本センターからDMATのスタッフを派遣しました」と先生。現在、久留米大学へ週2回ドクターへり専門の救急医を派遣しているのは、「国内で災害があったとき、被害にあった傷病患者をドクターへりで本センターへ搬送することも考えているから」と言います。また、救命救急センターを中心に、福岡市消防局、福岡県警、NTTなどの協力を得て、毎年大規模な防災訓練を実施しています。



災害医療では、福岡市のドクターへりも出動。防災訓練では、福岡市のドクターへりも出動。災害医療時に用いられる「トライアングル」。傷病の緊急度や重症度を迅速に評価し、治療や搬送の優先順位決定を行う。

災害派遣医療チーム(DMAT)の様子



東日本大震災時、九州内の病院・大学からメンバーが集まり、自衛隊輸送機で被災地へ。現場では緊迫した中、医療活動を行った。

# ココロとカラダ



春は、慣れない環境の中で気持ちの浮き沈みが多くなる季節であります。そんなときにはカラダを動かしてココロもリフレッシュ。日常生活ですぐにできる運動を紹介します。

## 心地よい春風に誘われて 自転車のペダルを踏み出そう



### 普段の生活の中で 「行動変容」を実現する

新生活新しいスタートの季節。一歩踏み出す、前向きな気持ちを支えるのは健康体。その健康体をつくるには、生活中に運動を取り入れることが大切です。運動の結果、生活習慣病の予防や筋力の向上が期待できます。日常的に運動を取り入れる際に注意したいのが「運動に対し身構えない」こと。時間は無理に割いて運動をしようとする、なかなかうまくいきません。時間を確保するのではなく、実は心理的に高度なスキルが必要なのです。研究から、今から運動をしよう」と決意して、1年後も継続している人は全体の3割ほどしかいない、という結果があります。運動を意識せずに統計、いつの間にか身体活動量が高まっているというのが最も理想的です。日常生活の中で、階段を上る回数を増やす、通学・通勤は徒歩や自転車など体を動かす移動手段を使う。このように、従来の行動パターンや生活習慣を望ましいものに変えていくことを「行動変容」と言います。

### 春のお勧めは自転車 気軽でメリットもさまざま

運動のために時間割こうとすると、多くの人は挫折してしまいます。運動しようといふところまで一気にいかなくて、立ち上がりつて外の空気を吸うことから始める、自然にやる気がわき上がるものです。まずは、外出することから始めてみましょう。外でできる運動として、お勧めのが自転車です。移動距離が広がるだけでなく、適度なスピードと視点の高さのおかげで発見が増えます。通学・通勤に、今まで電車や車、バスを使っていたところを自転車にするだけで、多くのメリットがあります。経済的なメリットもその一つ。また、車で都市部を移動するときは渋滞しがち。移動距離によっては自転車と所要時間はあまり変わりません。それに、自転車は外で行う運動です。自然に接する時間が増えます。何も考えず、体を動かしている時間が1日の中に数十分あるということの意味は大きいのです。最近は自転車やウエアもおしゃれなものが豊富。まずは道具から入るもの

### 自転車のメリット

- ・交通費が掛からず経済的
- ・自然を満喫でき、気分が爽快に
- ・仲間との交流で、生活が楽しく
- ・環境に優しい



#### 【監修】

スポーツ科学部  
山口 幸生 教授 (専門:運動心理学)

「健康づくりのための生活習慣改善サポートシステム」の開発に取り組む先生。通勤は自転車で、2011年には福岡市のサイクルスポーツイベント「ツール・ド・福岡」の実行委員長を務めた。  
<http://www.tourdefukuoka.com>

私の研究テーマでもある「行動変容」とは、今までの生活習慣を見直して改善していくことを指します。毎日、甘い物を食べるトカロリーオーバーになってしまいます。ダイエットを試みる場合は、すべて我慢するのではなく、3回に1回は我慢するようにする。そして「食べたい」という小さな欲求をうまくコントロールする方法を考えましょう。食べ物を置く場所を隠す、自分が外に出るなど、ほんの数秒で達成できることで構いません。小さな欲求を乗り越えることができれば、自然と生活習慣が改善していくはずです。

### 来てみて 話して こころの整理

## ヒューマン ディベロップメント センターのご案内

(HDセンター:学生相談室)

ヒューマンディベロップメントセンターでは、カウンセラーが皆さんからの相談を受け付けています。例えば、大学になじめない、親しい友達ができない、授業に興味がない、授業に付いて行けるか不安、何となくだるい、よく眠れない、将来のことについて迷っている、などどんな相談でも結構です。1人で悩まずに、早めにHDセンターに来てみませんか?相談内容の秘密は守りますので、安心して相談してください。

**相談時間**  
月・水・金: 9:30~16:00  
火・木: 9:30~18:40

**場所**  
相談、グループ・セミナーは無料、  
相談は予約制です。

学生部事務室棟3階  
(1階に学生課の建物)  
○本学学生のことであれば、ご家族・教職員の皆さまからの  
ご相談もお受けしています。

#### 予約・お問い合わせ

**092-871-6631** (代)(内線2630)

\*お電話は平日の16:30までにお願いします。

HDセンターのウェブサイトもご覧ください  
(<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu816/home1/hd1.htm>)

### グループ・セミナーのお知らせ

新入生の方や、「HDセンターに興味があるけれど、まだ行ったことがない」という皆さん、この機会に一度見に来てみませんか?お茶を飲みながら、一緒に時間を過ごしましょう。学年を問わず誰でも参加できます。

#### ●ランチタイムをご一緒に

HDセンターで一緒にランチタイムを過ごしてみませんか?

・毎週月曜日 12:00~13:00

・担当カウンセラー:星宮 公子

#### ●対人関係が苦手なあなたへ

授業やサークル、アルバイト、面接などの社会的場面が苦手な方におすすめします。

・毎週木曜日 16:20~17:20

・担当カウンセラー:星宮 公子

#### ●はじめの一歩

初対面の人と楽しく過ごす時間です。新入生や初対面の人との会話が苦手な人におすすめです。

・毎月11日(木)、18日(木)、25日(木)

16:20~17:20

**よし  
自転車習慣が楽になる**

自転車で長い距離を楽に乗るためにアドバイスとしてはできるだけペダルをこいで回転数を上げるのがポイント。ギアを重くして回転数を減らすと、結果的に身体への負荷が高くなってしまうのです。軽めのギアで回転数を上げると、楽に自転車と一緒につなぎ楽しさが身に付いていきます。足で走るような感覚でスマートに自転車をこぎます。シティサイクルに乗る場合は、サドルの高さによってさきがさが変わるので正しい調整が必要です。ペダルを踏み込み、片足が一番下にきた状態で軽くひざが曲がるくらいの高さがベストです。ペダルをこぐのは土踏まずではなく、親指の付け根辺りを意識して踏み込む方が効率よく力が加わります。

いいでしょう。

また、趣味として、各種イベントへの参加があります。勝ち負けを決める美しい風景の中、目的地まで楽しく走る中での交流から仲間を見つけるのもお勧め。仲間がいること生活の充実度が違ってきます。

### 快適に自転車に乗るための コツ・アドバイス

- ・ギアは重くせず軽めで
- ・がに股にならないように
- ・サドルの高さを正しく調整
- ・ペダルは親指の付け根辺りで踏む
- ・タイヤの空気をこまめに入れる
- ・交通ルール・マナーを守る



地域と連動した  
環境保護活動を通じて  
組織活動力や  
チームワークを養う

10年前から地域  
樋井川の河川清掃を続ける

2月早春、春はいえ川の水は一年で最も冷たい時期。それでもはかたわん海援隊参加の学生たちは元気に川の中へ入り清掃を始めました。高校生、そして地域の方々も長靴を履いて川べりや河川敷へ。皆の楽しそうな声が響き、「はやくやまと海援隊は、本学工学部社会デザイン工学科の学生を中心に約10年前に結成されたボランティアグループ。「水」をテーマに、さまざまな地域環境保護環境意識啓発を行っています。その中で地域の方々と一緒に取り組むのが樋井川の河川清掃です。さつづけは福岡市城南区が主催した「樋井川まちづくりワークショップ」。この催しに参加した工学部社会デザイン工学科の渡辺先生が現在の「樋井川を楽しむ会」の会長と知り合い、樋井川の掃除を一緒にしようという話に、地域の皆さんと福岡大学の学生有志によって、「はかたわん海援隊」と樋井川を楽しむ会はこうして始まりました。現在は「はかたわん海援隊」と樋井川を楽しむ会のメンバーを中心にはほぼ1ヶ月のペースで活動を継続、さらに地元の高校生などを含め毎回約30~60人が参加するようになりました。回の清掃活動で収集するごみは200kg以上、タバコの吸い殻、ビニール袋やお菓子の袋などが多く、時には川の中や自転車が捨てられています。約10年前、こうしたごみは上流から流れてくる

ものだと考えられていませんでしたが、調査によって周辺からのごみであることが判明。現状を知ることで、自分たちの手で樋井川をきれいにしなければ」という地域の方々の意識も高まり、長年の清掃活動を通して川の美しさは随分と回復しています。はかたわん海援隊は、このようなこみでイベントを通じて地域への植物調査の結果をイベントなどで樋井川の環境保護全般をより体系的・効率的に行うことに貢献しています。また、清掃以外にも小学生の絵画を集めたあおぞら美術展や、小学校での環境教室などで樋井川の環境を守る啓発活動を展開しています。地域とのコラボレーション活動は、学生たちの意識にも良い影響を与えてています。渡辺先生の話では、地域の中で積極的に活動をする学生はまず人との接し方が変わるとか。人の論に入つて相手を尊重しながら自分も主張していくようになるのです。卒業後も清掃活動に觸れるのが卒業生が多いこの活動の特長。地域の方々との交流を継続することで、学生はコミュニケーション能力を磨き、大人として成長するのです。

**コラボレーション活動の経験を  
生かし社会人として新しい活動を**

「はかたわん海援隊」の今との目標は「活動の持続」。環境保護は地域に住む方々との連動が第一です。河川の清掃や生態系の調査などを実行することで多くの学生が経験を重ね、卒業後は、社会人としておののの地域や重慶でその経験を生かし新しい活動を始める。そして地域とのコラボレーション活動の輪は広がっていくのです。

学×地  
—いっしょだから×もっと—

## Collaboration F

工学部社会デザイン工学科  
4年次生  
三浦 純奈さん

工学部社会デザイン工学科  
渡辺 亮一准教授

工学部社会デザイン工学科  
4年次生  
花田 純一さん

河川清掃と聞くと黙々と掃除をしているイメージがわくわくされませんか? 実際はアットホームな雰囲気です。地域の方と一緒に交流の場という感じなので、興味を持った人は気軽に参加してほしいです。

学生たちは樋井川の清掃活動はじめ、多くの活動を通してチームワークや協働作業のノウハウを学んでいます。この経験を財産として、将来の仕事や地域との活動に生かすことを期待しています。

樋井川を楽しむ会 会長 上園 刚司さん

「はかたわん海援隊」の学生さんと一緒に長く続けてこられた、たくさんの出会いがあって楽しい。私の子どもたちは「福島のお兄ちゃん、お姉ちゃんに会いに行く」と言って、自分から喜んで付いて来ます。

### 福大生×地域のつながりが強まり、環境もより改善されていく





福德 亮さん

岡部 優真さん

牟田 雄祐さん

## 福德 亮さん

薬学部薬学科卒業(書道部)

第51回全国書道展 (特選)

第28回読売書法展 (特選)

第17回全日本高校大学生書道展 (大賞:4年連続)

## 岡部 優真さん

スポーツ科学部スポーツ科学科卒業(陸上競技部)

天皇杯第78回・第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子三段跳 (優勝)

第96回日本陸上競技選手権大会 男子三段跳 (優勝)

第4回アジアオールスター 男子三段跳 (第3位)

## 牟田 雄祐さん

スポーツ科学部スポーツ科学科卒業(サッカーチーム)

第33回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント (優勝)

第58回・第61回全日本大学サッカー選手権大会 (準優勝)

第38回トゥーロン国際U-21サッカー大会(フランス) U-21日本代表

## その栄誉をたたえ、さらなる飛躍に期待して

福岡大学在学中の課外活動において、顕著な成績を収めた卒業生に授与される「福岡大学在学中優賞」。平成24年度は福德亮さん、岡部優真さん、牟田雄祐さんの3人が受賞しました。正課の学びはもちろん、スポーツや芸術において卓越した技量と精神力を遺憾無く発揮した3人。この栄誉を胸に社会人としてのさらなる飛躍を期待します。



## 学長式辞 平成24年度卒業式

学部卒業生4,059人の皆さん、ならびに大学院修士ないし博士課程前修了243人の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。本学を代表して心からお喜び申上げます。

また、家族の皆さんの方々、さるに列席の皆さん方に心よりお祝い申上げます。

本日の卒業式に当たり、私から卒業生の皆さんに、餞の言葉を贈りたいと思います。

餞の言葉には教養知「専門知」「経験知」という3つの「知」です。「教養知」と「専門知」は専門的な知識を学ぶことと、専門分野にとらわれない教養の知識を学ぶことによって得られる知識です。それは勉学のうえ皆さんのが行なうなかで経験によって得られる知識ですから、「経験知」と言えるかと思いまが、ここでは、勉学のカデゴリーを除いた大学時代の経験によつて得られる知識を「経験知」と言つことにします。

これら3つの知は、いずれも大切な知として位置付けられます。まず、「教養知」と専門知の吸收と蓄積は、その人の知識を豊富にします。それだけでなく、論理的な分析力や思考力、大局的・総合的なものの見方、バランスのある判断力、コミュニケーション力など知力の向上に導きます。そして、「教養知」「専門知」の吸収と蓄積は、その人の精神力や心構えの向上にもつながります。例えば、勉学は楽しくできたら最高ですが、必ずしもそのようになります。苦しい思いや、辛い思い、我慢する心などが伴つてきます。それに打ち勝ち、自分に負けない心を持つことが要求されます。そこから、「教養知」や「専門知」を吸収する勉学は、我慢や忍耐力、自分で自己打撃勝つ強い精神力をもつたくなります。勉学という行為に敬意を払うべきであると思いつます。

次に、「経験知」についてお話をさせていただきます。なぜなら、「経験知」によって皆さんのお精神力や心構えが大きく向上すると考えられるからです。大学時代において、具体的に言

えば、課外活動やボランティア活動、各種の国内外や海外での研修活動などの貴重な経験が挙げられます。それらの付加的な活動によって得られる知識は非常に重要であり、学生の精神力や心構えの向上に大きく影響します。例えば、マナーや礼儀、誠実、倫理観や道徳、正義感、誠実さ、責任感、我慢、忍耐力、強い心、優しい心などさまざまな精神力あるいは心構えを磨くことになると思います。

私は、今述べました「教養知」「専門知」「経験知」の3つがうまく結合することによって、皆さんのお精神力が向上したと信じています。目には見えないかもしれませんし、一人一人そのレベルや中身は異なるでしょうが、皆さんとの知力と精神力は、一回り成長して、皆さんに付加価値を与えたと思っております。そして、皆さんのお精神力や心構えを磨くことになると思います。

神力の向上が、もともとあるというプロセスは、皆さんの将来を樂むための基盤になると思っています。

「教養知」「専門知」「経験知」の3つが、よく結ぶことによって、皆さんのお精神力が向上したことと信じています。目には見えないかもしれませんし、一人一人そのレベルや中身は異なるでしょうが、皆さんとの知力と精神力は、一回り成長して、皆さんに付加価値を与えたと思っております。そして、皆さんのお精神力や心構えを磨くことになると思います。

卒業式は、英語でカメンスメント(Commencement)と言います。それが、始まりとしておかれます。どうかこれまでからも3つの知をできるだけ吸収・蓄積することによって、知力と精神力を高めていくってください。皆さん一人が強力な存在となるれば、それは自分自身のため、家族のため、さらには所属組織のため、ひいては、地域社会や国家のためにつなっていました。一人は小さな存在ですが、その存在は相互に結び付くという相乗効果によって、地域社会や国を支える強力なパワーとなります。

最後になりましたが、ご父母の皆さんには本学に対し、これまで多くご支援ご協力をいただき本当にありがとうございました。どうかございました。心から感謝申し上げます。今後とも、百百の上、ますますお元気で活躍されますようお祈りいたします。

それでは、卒業生の皆さん、皆さんの前途が大きくなりがれんことを、そして長い人生をつづいていかれますようお祈りします。私の式辞といたします。

平成二十五年三月十九日

福岡大学長 衛藤 卓也

福岡大学から今、未来へ  
培つた知力と精神力を礎に踏み出す





# あの日からの贈り物 Archive

GIFT.1

今、踏み出す

1969



1969年4月 福岡大学入学式  
第一記念会堂に集まつた新入生



1965年4月、入学式当日の新入生たち

1965

春、入学。いよいよ幕が上がる。  
受験という試練を見事に乗り越えて、  
希望にあふれた目を真っすぐに向けて。  
その視線の純な輝きは昔も今も変わらない。

君はこれからきっと大きくなれる。

学び、人生を語り合い、夢を紡ぎ合い  
いつか巣立っていくその日までに、  
君はこれからもっと豊かになれる。

ステージは広大な福岡・七隈のキャンパス。  
テーマは人間としての成長。  
かけがえのない「福大時代」を  
自分らしく、みずみずしく、鮮やかに。  
今、力強く踏み出す。

1973

1934

1998

1968